

# 事業報告

令和元年度 教育事業

## 「冬の高遠フェスティバル」

令和2年2月1日（土）～2日（日）

【対象】 幼児・小・中学生とその家族等

【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

### ～趣旨～

信州高遠青少年自然の家を家族やグループ等に広く開放し、冬の様々な体験活動を通して、自然や自然体験活動への興味関心を高める。

### ～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

### ～活動日程～

日程	11:30	13:15	13:30	16:00	17:00	18:30	19:00	20:30
2/ 1 (土)	バス送迎	受 付	はじめの会	冬の遊び体験 ・雪上遊びリンピック ・そり遊び ・自然観察 ・クラフト体験	スノーキャンドル作り	夕 食	スノーキャンドル ライトアップ	就 寝 準 備
							プラネタリウム 星の観察 クラフト体験 プレイホール開放	
	入 浴							
日程	9:00	12:00	13:30	14:00				
2/ 2 (日)	朝 食	☆そりすべり大会 ☆体験活動 ・自然観察 ・クラフト体験	昼 食	表彰式 おわりの会	解 散	バス送迎		

### ～参加者～

宿泊95家族／325名

1日帰り13家族／42名

2日帰り6家族／20名 計：387名

（長野県、東京都、山梨県、埼玉県

神奈川県、愛知県、静岡県、大阪府）



### ～活動トピックス～

#### 活動Ⅰ 冬の遊び体験・クラフト体験



雪上遊びリンピック（5種目）では雪の無い中、代替品を使いそれぞれの競技で競い合い、クラフト体験では親子で協力し毛糸を使った「帽子のマスコット」を制作した。また、大自然の雪の中を歩きながら動物の足跡を探すなどの自然観察等で楽しんだ。スノーシュー体験、歩くスキー体験、そり遊びが中止の中、参加した親子は満面の笑顔にあふれていた。

## 活動Ⅱ スノーキャンドル作りとライトアップ

昼間の雪像作りでは、家族でデザインを話し合い、協力しながら制作に取り組む姿が多くみられ、少ない雪で工夫されたオリジナルの素晴らしい雪像が完成した。

夜のプログラムとして実施した点灯式では、参加者のカウントダウンに合わせ街灯を一斉に消灯、雪上に幻想的なキャンドルの灯りが浮かび上がると大きな歓声が沸き起こった。



## 活動Ⅲ そりすべり大会

小学生低学年・高学年・中学生・親子（親と幼児）の4部門に分かれ、100mコース・120mコースの合計タイムにより競い合った。子供達も真剣な表情ですべり、ゴール付近からは滑走している子供達に向けた大きな声援が沸き起こり、親子の部では、子ども達よりも親達が夢中になっている場面が多く見られた。

### ～参加者の声～

親「家にいるとどうしてもテレビやゲームをしてしまうが、テレビゲームが無くてもとても楽しく時間が過ごせました。子供との時間も増え本当に良かった。」

親「子供たちの楽しそうな笑顔を見る事が出来た。作ったクラフト作品を持ち帰れるのが嬉しい」

親「子供も大人も一緒になって楽しめるイベントでとても良かった。」

親「親子でクラフト作ったり、他の親子と交流することで普段の親子関係を見直す良い機会となった。」

親「子供が遊びリンピックで入賞しとても自信がついたようです。成長できました。」

子「楽しかった。新しいお友達もたくさんできてよかった。」

子「いろいろな体験ができて良かった。」

子「来年もぜひたいに来た～い」

### ～成果と課題～

○プラネタリウム・星空観察において整理券を配布したことにより、待ち時間も少なく、空いた時間に他の活動が出来たと好評を得た。他の活動においても整理券配布について検討する。

○雪が少なく中止した活動の代替えとして「クラフト体験」を設けたが参加者からは親子で一緒に作れることで好評を得ていた。来年度、雪が有る状況下でも「クラフト体験」は必要である。

●そりすべり大会で集合からスタートまでの待ち時間が長く小さい子供達には寒かったとの声が聞かれた。来年度は集合時間、スタート順等に工夫・改善が必要である。

●そり大会の参加者から「そりの記録証があると良い」との声が多く聞かれた。来年度は滑走者一覧表にタイムを入れ配布する。

●そり大会終了後の空き時間にプレイホールを開放してほしいとの意見が多く聞かれた。プレイホール開放に向け利用中の安全面も含めて検討する。